TOREK 自然農法
ホットニュース

第 189 号　2014. 1. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

2013年 自然農法稲作 報告 ①

長野県　堀 政則

一昨年2012年11月、米・コンテスト（米・食味分析鑑定コンクール国際大会）にて高い評価を頂いたことで、今まで接点がなかった、また、あえて近づこうとしなかった農家の方々の、無施肥無農薬栽培に対する歪められた認識が、一つ食味という視点から改められました。安全かもしれないが、肥やしを入れない、そんな栄養失調な米は、うまくないだろう、という誤解や揶揄（やゆ）が一掃されました。またそれにより、栽培中のイネや私の作業に注がれる視線が以前にも増して多くなっているのはよく感じられ、こちらとしても、それに伴う責任も以前に増して強く感じております。

自分としては、2012年に初めてコンテストへ参加したことで、今までにはない形で、真の自然農法を伝える場を許されるのではないか、という期待感が生まれました。そして、どうしても、もう一度あの会場に参加したい、全国から集まる先鋭的な農家の人たちと話を交わしたいという思いに駆られました。

稲刈りの10月を迎え、11月に実施される宮城県での大会の参加資料を取り寄せました。真の自然農法の普及を想念の基として、少しでも多くの農業者との出会いを頂きたい、との祈りを込め、出品の「こしひかり」と「農林48号」の2検体をコンテスト事務局へ発送しました。そしてその時点から、期待と大きな不安が入り混じった数日間を、まんじりとしないまま過すごしました。どうにもこればかりは、お呼ばれしないと参加のできない大会ですから、前回の何にも考えず勧められるままポンと米を出したのとは大違いです。発送して8日目、事務局から大会ノミネートの電話が入ったときには本当に安堵しました。
（3954検体中、食味値、味度値の、第1次、第2次審査で、合計点トップ）

このコンテストは、主催者側も参加者側も、確かに米の競技という面はあるものの、やる気のある、向上心のある生産農家が年に一度集まれる場として、盛んな交流が交わされる場でもあり、稲作農家の社交場的要素の強い大会でもあり、また競技を通して、若手の稲作農業者の育成のために、小学生部門、お米甲子園として農業高校生部門、若手農業者経営部門ということを通じて、稲作農家全体の発展と環境保全を理念においているものです。

大会会場である宮城県の七ヶ宿町に向かうにあたり、ノミネートが決まった時点から2度にわたり、友人、役場担当から、席が一つ空いているから、木島平村の他のノミネート者と一緒に同行のお誘いがあり、最初は保留（まずTOREKに報告してから現地入りを考えていたため）していましたが、日を得るに従い、そうしたほうがいいような気がしてきて、自宅からの参加といたしました。

11月23日、役場が用意した10人乗りワゴン車に乗り込み、間もなく、隣の席の岡田さんから無施肥無農薬栽培についての質問を頂き、それが引き金に次から次へと話は続きました。実施の「根本的な動機」「経緯」「栽培の特徴」「化学物質過敏症」「衰弱する肉体」「作物の腐敗」等のお伝えができたこと、1台のワゴン車により、同乗者すべての人が初めて実際の栽培者の口から直接、無施肥無農薬栽培の実態を知ることとなりました。

パーキングに寄ったときには、前の座席で話を聞いていた、この日初めて出会った梅崎さん（39才）から、もっと詳しい話を聞きたい、食べられずに困っている人の役に立つお米を自分も栽培してみたい、両親と相談して来年から試験栽培もしてみたいとのことで、改めて会う約束を交わし、また木島平ブランド米研究会の代表的栽培農家の佐藤さんにも興味を示していただきました。そして私たちは、まる2日間、寝食、行動を共にすることとなり、そのおかげでお互いのことをよりよく知りあうこととともなりました。

2013 年　特別優秀賞受賞（左が堀さん）

また大会会場では、表彰席の隣にいあわせた岐阜県高山市から参加した青年と話ができ、今年田んぼでの再会の約束を交わすことができました。今回の参加に、ちゃんと伝える場は準備されていたのだと、しみじみと感じました。

そして大会の中で、もうひとつ大きな縁を感じることがありました。大会の社交場である懇親会場にて、次々と各県の生産者が自由に発表、発言してゆき、会もほぼ終盤にさしかかったころ、3年後の開催地の発表が合わせ行われました。今回は宮城県、来年は青森、そしてその翌年は石川であるのは、すでに昨年決まっておりましたので、聞くとはなしに目を向けると、役場職員らしき一人の男性が舞台に上がり、「皆さん、3年後はぜひ熊本県菊池市においでください」と聞こえてきました。会場はすでに混濁としている中、この発表披露にビックリし、顔を紅潮させ、熱い視線を向けているのは、恐らく私ただ一人であったのではないでしょうか。

菊池市と言えば渡辺さん、お米、お茶、シイタケ、お酒と大勢の無施肥無農薬栽培生産者が取り組んでいる所、あのウンカの被害に会わなかった田んぼのある所です。体に電気が走る感じがしました。これも何かの大きなプログラムの中の一つの準備ではないかと思いました。

新たに許されたこの大会という場において、真の自然農法、TOREK自然農法の実施者として、これからも何ができるのか、何を示せるのかを強く思いながら、来年の青森県、次の石川県、そして熊本県菊池市の大会へと参加ノミネートのお許しを頂きたいと思っています。（次号に続く）

自然農法のほうじ茶の味

東京都　N.T

私は中学二年生のとき、部活に毎日水筒を持っていっていました。私の水筒の中身はたいてい紅茶でしたが、たまに自然農法のお茶を入れたりもしていました。そのころ友達と水筒の中身を飲んだり飲まれたりすることが頻繁にありました。ある日、いつものように友達から「ちょうだい」と言われたので、その友達に自分の水筒を渡しました。すると、その友達が「このお茶すごい美味しいね。どうしたの？」と言ってきたのです。その日、母が水筒を用意してくれたので、自分の水筒の中身が自然農法のほうじ茶だったことを知りませんでしたので、「そう？いつもと同じじゃないかな」としか答えられませんでした。帰ってその話を母にすると、今日の水筒の中身は自然農法のほうじ茶だったことがわかりました。そのとき私は、改めて自然農法のすごさを感じました。この経験を通じて、自然農法の作物を毎日のように食べることができることへの感謝を忘れてはいけないと思いました。

喜びのみかん収穫！

12 月 8 日、市川生産グループ有志 24 名による、みかんの収穫が静岡の宇佐美で行われました。今回は鳥の被害が少なかったことが良かったとのことです。

12 月 28 日には、西浦でジュース用のみかん選別があり、こちらは鹿対策のため電磁柵をしっかりしていきたいとのことでした。喜びでみかんを購入する方々の姿が印象的ですし、ジュースも楽しみです。

お知らせ
- ★ **自然農法勉強会**　2 月 24 日(月) 別院講堂　午前 10:30～　午後 19:00～
- ★ **自然農法頒布会**　2 月 26 日(水) 鎌ヶ谷会場　11:00～　（売り切れ次第終了）
- ★ **自然農法頒布会**　2 月 23 日(日) 東中野会場　10:00～　（売り切れ次第終了）

無施肥無農薬栽培物の販売予定　**2 月 4・10 日**　**於：伊都能売会館**
生産者の方々が直接販売されます。　東京都八王子市長房町 57　042-665-6369

- ● 市川生産グループ：**煎茶、ほうじ茶**
- ● きじま平自然農産：**白米（農林 48 号）、米粉、甘納豆、干し柿、きな粉**
- ● 中　島　農　園　：**ジャガイモ、高原豆、梅干**
- ● 長柄山自然農園　：**卵、鶏燻製**
- ● ジョリフィーユ　：**マドレーヌ・クッキーのギフトセット、カボチャのモンブランほか**

お問い合わせ先：編集部　針貝　FAX：03-3369-3324　e-mail: naturefarming@torek.jp
ＴＯＲＥＫ活動のホームページもご覧ください。　http://www.torek.jp